

経営比較分析表

北海道 黒松内町

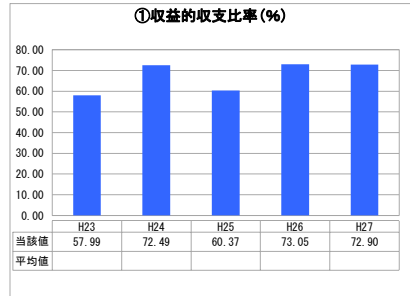
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	75.67	71.73	3,920

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,023	345.65	8.75
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,249	1.00	2,249.00

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成27年度全国平均

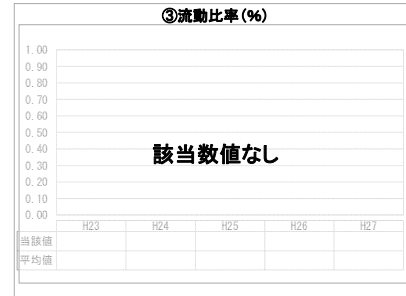
1. 経営の健全性・効率性



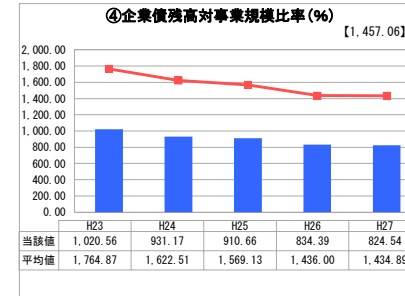
「単年度の収支」



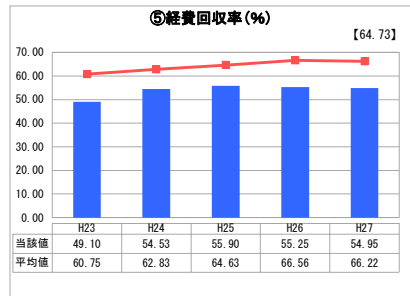
「累積欠損」



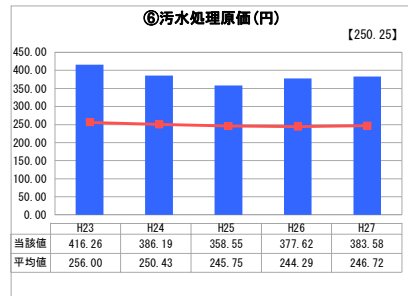
「支払能力」



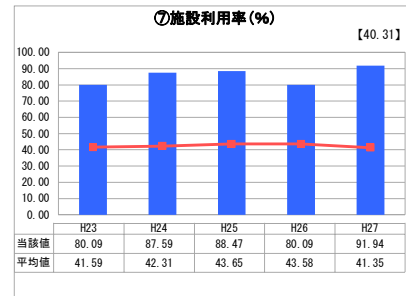
「債務残高」



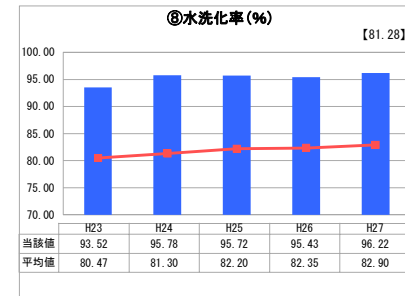
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

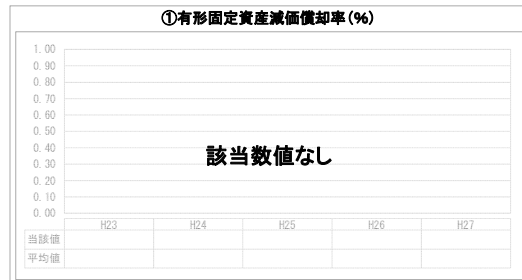


「施設の効率性」

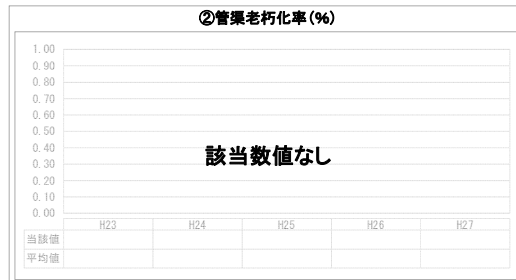


「使用料対象の捕捉」

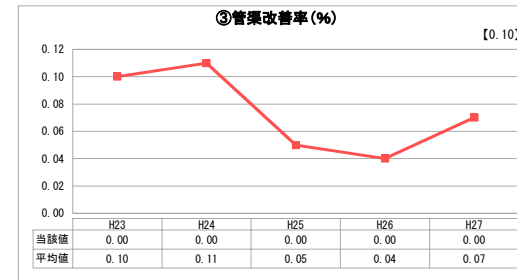
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率については、100%を下回っている。現状は、維持管理費については使用料収入でほぼ賄えているが、人件費や地方債償還金については、一般会計からの繰入金（繰入基準額を含む）で賄っている状況である。このため、経費回収率も類似団体を下回っている。

・企業債残高対事業規模比率については、類似団体と比べ低くなっており、当面は処理場の機械・電気設備の更新以外ないことから、企業債残高は減少する見込みである。

・水洗化率や施設の利用率については、類似団体と比較し、高い水準となっており、施設の効率性は高いと判断されるが、不明水の増加や設備の老朽化による修繕などにより、汚水処理原価は高くなってきている。

2. 老朽化の状況について

・当町の下水道事業は、平成8年度より供用開始し、20年経過している。

・機械・電気設備については、耐用年数を超えてきており、老朽化が進んでいることから、住民の日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止する必要があるため、長寿命化計画を策定し、限られた財源の中で計画的に設備の更新を進めている。

・管路については、当面更新の予定は考えていないが、点検や清掃などの適切な維持管理を行い、延命化を図ってきたい。

全体総括

・当町の特定環境保全公共下水道事業の経営は、一般会計からの繰入金で賄っている部分が多く、今後も設備の更新や修繕、人口減少による使用料収入の減少が見込まれるため、健全で効率的な経営を行うために、不明水対策や適切な維持管理を行うとともに、未納額の解消や使用料改定の検討が必要と思われる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。